

中央地区のまちづくりに関する提言書（最終報告）

令和6年10月

登別市中央地区まちづくり協議会

目次

1. 中央地区まちづくり協議会の概要.....	3
2. 中央地区のまちづくりに関する検討経緯.....	4
3. これまでの協議経過.....	5
4. 中央地区のまちづくりに関する提言（最終報告）.....	16

資料編

資料1 中央地区まちづくり協議会委員名簿

資料2 中央地区まちづくり協議会ワーキンググループ委員名簿

登別市中央地区まちづくり協議会は、登別市新庁舎の移転により生じる遊休地を有効活用し、中央地区の活性化に繋げることを目的に設置され、これまで同地区のまちづくりについて協議を進めてきた。

本報告は、これまでの協議会における議論を踏まえ、現庁舎跡地の利活用や周辺地域を含む環境整備など、中央地区の活性化に向けた方向性について、市に対し提言を行うものである。

1. 中央地区まちづくり協議会の概要

○設置日 令和4年11月25日

○目的 主に登別市新庁舎の建設に伴う中央地区のまちづくりに関する事項を協議し、地域の活性化を図ることを目的とする。

○委員

委員名	委員数	任期
中央地区まちづくり協議会	14名	令和6年12月8日
中央地区まちづくり協議会ワーキンググループ	17名	
中央地区まちづくり協議会学生委員会	9名	

※協議会及びワーキンググループ委員は、中央地区の経済活動に深く関わっている団体及びまちづくりに積極的に関わっている団体等から選出。

※学生委員会委員は、市内の専門学校及び高等学校から選出。

○開催状況

協議会	ワーキンググループ	学生委員会
第1回(令和4年12月9日)	第1回(令和4年12月26日)	第1回(令和5年2月15日、22日)
第2回(令和5年6月13日)	第2回(令和5年1月31日)	第2回(令和5年2月27日)
第3回(令和5年7月24日)	第3回(令和5年2月20日)	
第4回(令和6年2月7日)	第4回(令和5年3月31日)	
第5回(令和6年5月15日)	第5回(令和5年4月26日)	
第6回(令和6年5月30日)	第6回(令和5年5月16日)	
第7回(令和6年6月26日)	第7回(令和5年9月13日)	
第8回(令和6年7月17日)	第8回(令和5年10月17日)	
第9回(令和6年8月21日)	第9回(令和5年12月19日)	
第10回(令和6年9月11日)	第10回(令和6年3月1日)	
	第11回(令和6年6月12日)	
	第12回(令和6年7月9日)	
	第13回(令和6年8月7日)	
	第14回(令和6年9月4日)	

3. これまでの協議経過

第1回協議会においては、今後の協議の進め方とスケジュールについて検討を行った。その結果、協議会の下にワーキンググループと学生委員会を設置し、若い世代の意見も取り入れながら協議を進めること、概ね令和5年12月頃までに提言をとりまとめることを決定し、ワーキンググループを中心に具体的な議論を進めることを決めた。

ワーキンググループでは、第1回～第6回会議にかけて、現庁舎跡地をはじめとした中央地区に望む施設や機能などに関し意見交換を重ねながら、中央地区のまちづくりに関するコンセプトを検討し、令和5年6月の第2回協議会において、コンセプト案3案を提案した。

協議会では、提案のあった3案をもとに協議した結果、各案のエッセンスを取り入れ、『観光とまち つながる つなげる 人と人 ホットするまちづくり』をコンセプトに決定した。

○中央地区のまちづくりに関するコンセプトの決定

ワーキンググループで取りまとめたコンセプト案(3案)

案①「つながるまち つなげるまち つたわるまち つたえるまち」

案②「まちと温泉、人と人がつながり、未来をつむぐまちづくり」

案③「いつでもだれでもほっと一息ふらっと行きたくなるまちづくり」

協議会におけるコンセプト決定

『観光とまち つながる つなげる 人と人 ホットするまちづくり』

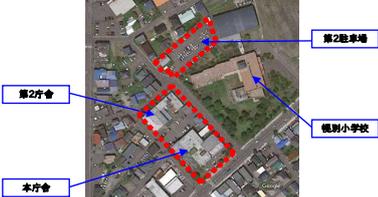
<コンセプトに込められた想い>

観光とまち、人と人がつながり、つなげていくことで、人が集まり知恵を出し合い、にぎわい溢れるまちを皆で創り上げ、さらに、そのすばらしいまちを次の世代へとつなげていきたい。

また、どの世代の人でもホッとできる目的がなくても行きたくなるようなまち、一度登別を離れても戻ってきたくなるまち、そのような魅力ある温かい(ホットする)まちになってほしいとの想いを込めた。

続く第3回協議会では、今後の協議事項について検討を行い、現庁舎跡地の利活用方法を最重要テーマとしながらも、中央地区を面で捉えて、同地区全体の活性化に繋げるため、①現庁舎、アーニス周辺的环境整備②中心地にある商業施設の活性化③現庁舎跡地の具体的な利活用方法の3点を協議事項にすることを決定し、引き続きワーキンググループで具体的検討を行うこととした。

○中央地区のまちづくりに関する協議事項

<p>①現庁舎、アーニス周辺の環境整備 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観づくり ・観光客の誘客 ・イベントの実施 	
<p>②中心地にある商業施設の活性化 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーニスの空きスペースの効果的な活用 ・未利用地や空き店舗の利活用 ・中心地への具体的な誘客方法 	
<p>③現庁舎跡地の具体的な利活用方法 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設 ・多機能な商業施設 ・イベントができる広場 	

ワーキンググループでは、3つの協議事項に関し協議を再開したが、中心地にある商業施設(ショッピングセンターアーニス)の活性化は、(周辺への波及効果も含め)中央地区のまちづくりを考える上で不可欠であり、(令和8年9月に予定される市役所新庁舎の供用開始とこれに伴う市観光経済部の移転により)当該商業施設2階に空きスペースが生じることが確実となる中、その活用策は喫緊の課題であることなどから、協議事項②を先行して議論することとした。

そうした中、市民有志から協議会委員に対し、図書館を含む複合施設をアーニスに設置し、活性化を図る旨の提案があり、これをワーキンググループに紹介したところ、商業施設に文化施設を誘致することでさらなる集客が期待できるとの意見などがあり、アーニスに図書館を移転することで活性化を図る案に肯定的な考えを持つ委員が多かったことから、第7回～第10回会議にかけて、アーニスを図書館に移転することの有効性や可能性について、市立図書館関係者などからも話を聞きながら検討を進めた。

その結果、全国的にも、商業施設に図書館を設置し、これを核にまちづくりを進めている例は多く、当該商業施設の活性化だけでなく、その周辺にも波及効果が期待できること、図書館の誘致が文化への興味を高め、これによる購買意欲の向上が期待できること、コンセプトである『観光とまち つながる つなげる 人と人 ホットとするまちづくり』に込められた思い—どの世代の人でもホットとできる、目的がなくても行きたくなるようなまちに繋がるものであることなどから、市立図書館を移転することで活性化を図る方向で提言書(中間報告)案をまとめ、第5回協議会で提案した。

●商業施設内に図書館を移転して地域活性化を図っている事例

施設内写真	事例内容
	<p>【宮崎県都城市】 図書館を核とした複合施設 <来館者数(年間)> 見込:27万人 ⇒ 実績:110万人超</p>
	<p>【青森県つがる市】 イオンモール内に図書館を設置 <来館者数(年間)> 目標:20万人 ⇒ 実績:30万人</p>

協議会委員からは、提言書(中間報告)案に肯定的な意見が多くあったものの、いったん各団体に持ち帰って協議し、次回会議で結論をまとめることとした。

続く第6回協議会では、委員より、各団体での協議結果の報告があり、提言書(中間報告)の文言を一部修正の上、提案どおり決定することとした(提言書(中間報告)については、令和6年6月10日に市に提出)。

同じく第6回協議会では、残る2つの協議事項について検討を進めるにあたり、今後の進め方とスケジュールを協議し、6月以降は、協議会本体とワーキンググループの会議を月に1回ずつ開催し、両会議の議論を積み重ねていくことで提言をとりまとめることとした。

また、協議の再開にあたり、協議会本体とワーキンググループの全体会議をワークショップ形式で開催し、想いの共有を図ることとした。

続く第11回ワーキンググループでは、コンセプトである『観光とまち つながる つなげる 人と人 ホットするまちづくり』に基づき行われてきたこれまでの議論を振り返り、提言のとりまとめに向けた考え方を協議するとともに、ワーキンググループを中心としたこれまでの議論において、委員より様々な意見が出されたことを確認した。

子どもを連れて遊べる場所がない。特に、雨天時など遊べる、安全で魅力のある施設があるとうれしい
登別には雨が多いまちなので、跡地には室内で活動などができる文化ホールのような施設がいいのではないかと温泉に宿泊した人が帰り道に寄ったり、学校帰りに人が集まるのではないかと温泉があって外国人なども集まるし、地元の人も集まる複合的なところがあると良い
市内にないコーヒーストールがある
と嬉しい
子どもが育って人が集う施設をつくるのが良いのではないかと
図書館など文化的な施設が充実していると嬉しい
雨や雪の日でも遊べる施設がほしい
子どもが遊べる場所を作る
本の文房具を購入するお店がないという声も聞く
まちを人が歩くことが重要
登別には人が集うところがない
中央地区には宿泊施設が必要ではないか
大きなイベントを実施できない
まちなかの子どもが多くなる必要がある
室蘭市にある「きらん」のようなものがほしい
イベントの回数や種類を増やす
子どもが室内で遊ぶ施設がない
観光客向けの駐車場の整備
イベントができる駐車場を確保したい
料金が安い子どもが遊べる室内施設を設ける

温泉街には人が来るけど、中央地区までは足をのばしてもらえない。ちょっと足をのばして見たく目玉が必要
コミュニティバスの運行など、中央地区とそれ以外の地区とが繋がれば、購買意欲の増加につながるのではないかと
子どもを遊ばせるのにきらんやナチュの森のような施設があると良い

WGにおける
これまでの議論

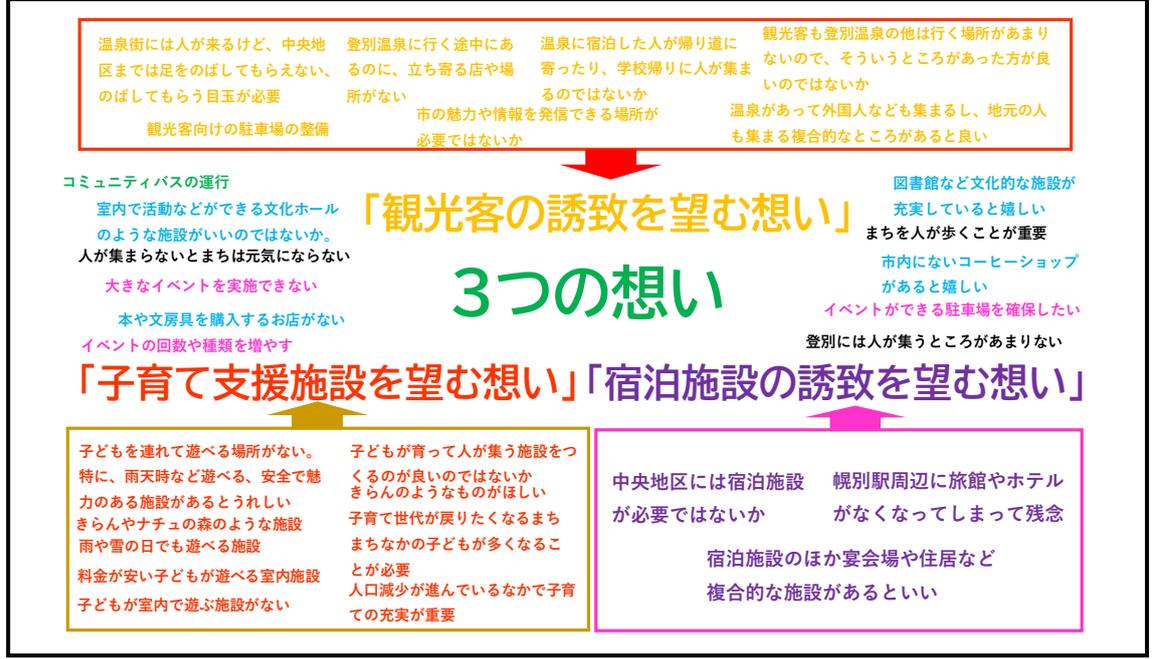
人を集められる施設であったり環境を作り上げていくことが重要、人が集まらないとまちは元気にならない
観光客も登別温泉の他は行く場所がないので、そういうところがあった方が良いのではないかと
宿泊施設のほか、宴会場や住居など複合的な施設があると良い
登別温泉に行く途中にあるのに、立ち寄る店や場所がない
市内にIT系企業がなく、市外に就職する学生が多い
子育て世代が戻りたくなくなるまち

観光客も登別温泉の他は行く場所がないので、そういうところがあった方が良いのではないかと
温泉があって外国人なども集まるし、地元の人も集まる複合的なところがあると良い

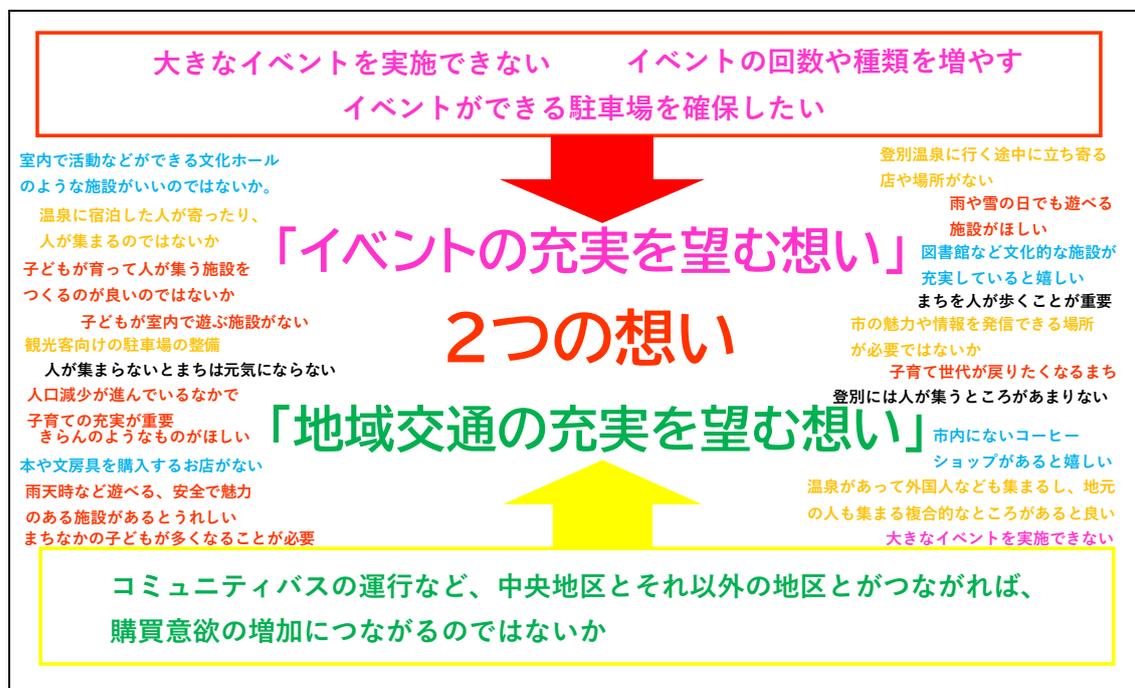
その内容を分析すると、それら意見は、2つの協議事項に紐づく形で、概ね5つの方向性に分類されることがわかった。

このうち③現庁舎跡地の具体的な利活用方法に関連するものとしては、登別温泉を訪れる観光客を中央地区に呼び込み、これを中央地区の活性化に繋げるべきとの意見が多かったほか、宿泊客や宴会客を中央地区に誘致し、商業施設や飲食店に経済効果を生むことを望む意見が多かった。

加えて、人口減少が急速に進む中、子育て施策の充実を求める声も多く、子どもを遊ばせることができる施設を望む委員も多数おり、協議事項③に関する意見については、3つの想い—「観光客の誘致」、「宿泊施設の誘致」、「子育て支援施設」に集約されることを確認した。



①現庁舎、アーニス周辺の環境整備に関連するものとしては、中央地区と周辺地域を地域交通で結び、地元客を呼び込むことを求める意見が多かったほか、広場等を拡充し、イベントの種類や回数を増やすべきとの声も多く、協議事項①に関する意見については、それら2つの想い―「地域交通の充実」、「地域におけるイベントの充実」に集約されることを確認した。



これら5つの想いはいずれも、コンセプトである『観光とまち つながる つなげる 人と人 ホットするまちづくり』に込められた想い―観光とまち、人と人とを繋げ、にぎわいを創り上げるまち、どの世代の人でもホットとできる目的がなくても行きたくなるようなまち―に沿うものであることから、今後は、この5つの想いを中心に議論を進めることとした。さらに提言については、市が事業性や実現可能性をフレキシブルに検証できるよう、具体の事業ではなく、施設誘致の方向性等を複数位置付けることとし、具体的な事業手法にも言及しない形でとりまとめることを確認した。

続く第7回協議会においても、提言のとりまとめに向けた考え方について、ワーキンググループと同様の方向性をまとめた。

令和6年7月には、協議会本体とワーキンググループの全体会議を開催し、協議事項①及び③について、これまでの議論で集約された5つの想いを基本に、ワークショップ形式で協議した。

その結果、協議事項③については、「観光客の誘致」に関し、市場的な機能を持った道の駅、物販スペース機能、市民農園、イベント広場といった幅広い意見があったほか、「宿泊施設の誘致」に関しては、ホテルや宴会場に対する要望が根強いことがあらためて確認されたことに加え、「廃業した宿泊施設の再開を第一に検討すべき」、「この地区に宿泊施設は必要だが、現庁舎跡地への新設か既

存施設の再開かは検討を要する」との意見があった。

さらに「子育て支援施設」については、意見交換前に、動画を交えて新庁舎の概要を説明したこともあり、新庁舎に子育て支援機能が併設されるのであれば、現庁舎跡地に子育て支援施設は必要ないのではないかとの意見が複数あった。加えて、新庁舎に併設する子育て支援機能を充実したものにして欲しい旨の意見もあった。

また、協議事項①については、「地域交通の充実」に関し、小型コミュニティバスの運行、カーシェアやレンタサイクルの仕組みの検討、タクシーを乗合利用するためのマッチングアプリの開発といった幅広い意見があったほか、「地域におけるイベントの充実」に関しては、既存のイベントスペースが手狭なため、新たなスペースが必要といった意見に加え、中心地にある老朽建築物を除却し、跡地を活用すべきとの意見も聞かれた。

なお、意見交換にあたっては、公用地を有効活用して観光施設や宿泊施設を整備し、まちづくりに繋げた例として、事務局から以下の事例紹介があったほか、「子育て支援施設」については、姉妹都市である宮城県白石市の「こじゅうろうキッズランド」が参考事例として紹介された。

●公用地に観光施設を整備して地域活性化を図っている事例

施設内写真	事例内容
	<p>【埼玉県東秩父村】 和紙製作所やギャラリー、農産物販売所、宿泊施設など複合的機能を持った道の駅（東秩父村 和紙の里） <入込客数（年間）> 入込客数47.5万人（2019年）</p>

●公用地に宿泊施設を誘致して地域活性化を図っている事例

施設内写真	事例内容
	<p>【奈良県桜井市】 通過型観光地からの脱却を目指し、市営駐車場跡地にビジネスホテルを誘致 ※当初10年間は地代無償</p>

●子育て支援施設を整備して地域活性化を図っている事例

施設内写真	事例内容
	<p>【宮城県白石市】 若い世代や子育て支援を強化することを目的に建設（こじゅうろうキッズランド）。 <来館者数(年間)> 7.3万人(2022年度)</p>

また、「地域交通の充実」については、コミュニティバスなどの運行により中心部と周辺部を結び、地域活性化に繋げている例として、以下の事例が紹介されたほか、「イベントの充実」については、中心市街地の空き地をイベントスペースとして利活用した事例が紹介された。

●デマンド型乗合タクシーの運行により交通空白地帯の解消を図っている事例

施設内写真	事例内容
	<p>【北海道上士幌町】 予約制のデマンド方式で自動運転のコミュニティバスを運行</p>

●中心部にある空き地等をイベントスペースとして利活用した事例

施設内写真	事例内容
	<p>【愛媛県松山市】 中心市街地の店舗減少、ショッピングセンターの郊外立地等による空洞化が問題化する中、空き地を活用し、産学官連携により、社会実験事業として、広場を整備するとともに、イベントを継続的に実施。</p>

続く第12回ワーキンググループでは、協議事項①及び③について、これまでの議論で集約された5つの想いを基本に、全体会議の結果も踏まえながら議論を行った。

その結果、協議事項③については、「観光客の誘致」に関し、道の駅は（立地的に）幌別東小学校敷地が適しているのではないかという意見があった一方、物販機能を有した「道の駅」的なものには

可能性がある、(全体会議で聞かれた)農園というアイデアも面白いとの意見が聞かれた。

「宿泊施設の誘致」については、ホテルや宴会機能の必要性に関し重ねて指摘があり、提言にも明記すべきとの意見が大勢であったほか、既存施設の再開の可能性も検討すべき旨を付記すべきとの意見が聞かれた。

また、「子育て支援施設」については、全体会議での意見も踏まえて、提言にこれを位置付けるかどうかに関し検討した結果、様々な世代が集う複合施設をイメージして議論してきたので、提言にも明記すべきとの意見が大勢であったほか、仮に新庁舎に併設する施設が小学校低学年以下を対象とするのであれば、年齢層が重複しないよう、よりアクティブなものとするなど、対象が重ならない施設を検討すべき旨を付記してはどうかとの意見が聞かれた。

協議事項①については、「地域交通の充実」に関し、手法はどうあれ、中央地区と周辺地域を結ぶ地域交通の必要性は提言に明記すべきとの意見が大勢であったほか、「地域におけるイベントの充実」については、イベントスペース拡充の必要性を提言に位置付けることはもちろん、中心部にある老朽建築物を除却し、跡地の活用を検討すべき旨を付記してはどうかとの意見が聞かれた。

第8回協議会では、ワーキンググループの結果も踏まえ、同テーマについて協議した。その結果、協議事項③については、ワーキンググループ同様、物販機能を有した「道の駅」的なものには可能性があるとの意見があったほか、「宿泊施設の誘致」に関しては、サウンディング型市場調査をはじめとした民間事業者への聞き取り結果などから、現庁舎跡地に新たに同施設を誘致することは実現性の面で課題があるものとも考えられるため、全体会議でも意見があったとおり、新規誘致に拘らず、過去に中央地区で営業していたホテルに再開の意向が無いかなども探る必要があるとの指摘があった。

また、「子育て支援施設」については、ワーキンググループ同様、提言に位置付けるべきとの考えでまとまったほか、市役所新庁舎に子育て支援機能が併設されることから、新庁舎に併設する施設と対象が重複しないよう検討すべき旨を付記することとした。

また、協議事項①についても、「地域交通の充実」、「地域におけるイベントの充実」ともに、ワーキンググループと同様の意見でまとめ、特に後者については、中心地にある老朽建築物を取り壊し、跡地を広場として活用することを検討すべきと重ねて指摘があり、これを提言に付記することとした。

続く第13回ワーキンググループでは、前回までの結果を踏まえ、提言の具体的方向性を協議した。

協議事項③のうち「宿泊施設の誘致」については、これまで指摘されてきた宴会場の併設に加え、生み出される賑わいをより大きなものとするためにも、宿泊客以外も利用できるスペースを併設することが望ましいとの意見があったことから、宴会場や宿泊客以外も利用できるスペースを併設した宿泊施設の誘致を提言するほか、過去に中央地区で営業していた既存施設に再開の動きがある場合には、行政としても、これに対する支援を探るべき旨を記載するとの意見をまとめた。

「観光客の誘致」については、これまでの議論に加え、施設が持続的なものであるためには、地元

に愛されることが必要であり、地域住民の集客にも繋がる施設であることが望ましいとの意見があったことから、物販機能を有した道の駅的施設、体験型農園などを例示し、観光客をターゲットに、地域住民にもアピールする施設の誘致を提言するほか、道の駅的施設は令和7年3月をもって閉校となる幌別東小学校跡地も含めて検討するよう記載すべきとの意見をまとめた。

「子育て支援施設」については、子どもとその親をターゲットとした施設の誘致を提言するほか、市役所新庁舎に同種の施設が併設されることを踏まえ、当該施設と対象が重複しないよう検討すべきとの意見をまとめた。

また、協議事項①のうち「地域交通の充実」については、デマンド型乗合タクシーやコミュニティバス等を例示した上で、中央地区周辺の地域交通の充実を提言すべきとの意見をまとめたほか、「地域におけるイベントの充実」については、イベントスペースの拡充を提言するとともに、中心地にある老朽建築物の除却と跡地活用を検討すべきとの意見をまとめた。

第9回協議会では、ワーキンググループの検討結果も踏まえ、提言の具体的方向性について引き続き協議したほか、提言の文言についても併せて検討した。その結果、提言の具体的方向性については、協議事項①及び③のすべての項目に関し、ワーキンググループと同様の考えをまとめたほか、提言の文言についても、事務局案の内容でまとめる考えで一致した。これらの議論を踏まえ、事務局において、報告書形式にした提言書（最終報告）の文案をまとめることとした。

これら協議結果を踏まえ、事務局にて、提言書（最終報告）を報告書形式でまとめ、協議会及びワーキンググループ委員に事前に送付した。

第14回ワーキンググループでは、報告書形式の提言書（最終報告）の内容に関し協議した。その結果、提言書（最終報告）については、事務局案のとおりまとめる考えで一致した。

一方、第14回ワーキンググループ終了後、会長より、コンセプトと提言内容の繋がりがよりわかりやすく伝わるよう修正する必要がある旨指摘があったことから、事務局にて一部加筆・修正を行い、第10回協議会において、修正後の提言書（最終報告）の内容に関し協議を行った。その結果、提言書（最終報告）については、修正後の内容でまとめる考えで一致した。また、提言書（最終報告）については、後日、会長より市に提出することを確認し、すべての協議を終了した。

●協議会及びワーキンググループにおける協議経過

【第1回協議会】

(令和4年11月25日開催)

第1回中央地区まちづくり協議会では、協議体制を含めた協議会の進め方、スケジュールなどの方向性に関する協議を行い、決定した。

【協議体制】

協議会のほか、ワーキンググループや学生委員会を設置することも含めた、協議会の規約も協議会として策定した。

【スケジュール】

市が実施するサウンディング型市場調査の結果も参考としながら、令和5年12月頃までに報告書を取りまとめる予定。

コンセプトの協議

【第1～3回ワーキンググループ】(令和5年12月～令和6年2月開催)

コンセプトづくりに向けた協議を行った。

【第1、2回学生委員会】(令和6年2月開催)

学生・生徒から中央地区に関する意見聴取を行った。

【第4回ワーキンググループ】(令和5年3月31日開催)

中央地区の過去のまちづくり事例の紹介として、約30年前に中央地区のまちづくりに携わってきた成田幸久氏を講師に招き、当時の状況等を教わった。

【第5～6回ワーキンググループ】(令和5年4、5月開催)

コンセプトづくりに向けた協議を行い、3案を協議会へ提案することになった。

【第2回協議会】(令和5年6月13日開催)

協議会としてのコンセプトを「観光とまち つながる つなげる 人と人 ホットするまちづくり」に決定。

中央地区のまちづくりに関する協議

【第3回協議会】(令和5年7月24日開催)

今後のワーキンググループにおける協議事項として次の3項目を決定した。※②を優先協議

- ①現庁舎、アーニス周辺的环境整備
- ②中心地にある商業施設の活性化
- ③現庁舎跡地の具体的な利活用方法

【第7、8回ワーキンググループ】(令和5年9月、10月開催)

協議事項②に関する協議等を行い、中心地にある商業施設ショッピングセンターアーニスに図書館本館を移転する意見が多くあったことから、その実現性について確認をするため、次回図書館に詳しい方を呼ぶこととなった。

【第9回ワーキンググループ】(令和5年12月19日開催)

協議事項②に関して、図書館長及び図書館協議会委員より、中心地にあるアーニスに図書館本館を移転する案等について意見を伺った。

【第4回協議会】(令和6年2月7日開催)

ワーキンググループにおける協議状況を報告した。

【第10回ワーキンググループ】(令和6年3月1日開催)

協議事項②に関して、アーニスに図書館本館を移転する案で取りまとめを行った。

【第5回協議会】(令和6年5月15日開催)

ワーキンググループにおいて取りまとめた提言書(中間報告)案を報告し、第6回まちづくり協議会で最終的な意見交換を行うために、各所属団体に持ち帰り協議することとした。

【第6回協議会】(令和6年5月30日開催)

各所属団体が協議した内容について意見交換し、アーニスに図書館本館を移転する案で概ね意見が集約されたことから、提言書(中間報告)について承認を得た。また、今後の進め方とスケジュールについて共通認識を得た。

【提言書(中間報告)】

【第11回ワーキンググループ】(令和6年6月12日開催)

今後の進め方とスケジュールについて共通認識を得るとともに、これまでの議論を振り返り、提言とりまとめに向けた考え方を了承した。

【第7回協議会】(令和6年6月26日開催)

ワーキンググループの協議結果を踏まえて協議した結果、提言とりまとめに向けた考え方を決定した。

【協議会・ワーキンググループ全体会議】(令和6年7月4日開催)

協議事項①及び③をテーマに、5つの想いを基本に、具体的な事業アイデアなどに関し、ワークショップ形式で意見交換を行った。

【第12回ワーキンググループ】(令和6年7月9日開催)

全体会議の結果も踏まえ、協議事項①及び③について、5つの想いを基本に、具体的な事業アイデアなどに関し協議した。

【第8回協議会】(令和6年7月17日開催)

全体会議及びワーキンググループの検討結果も踏まえ、協議事項①及び③について、5つの想いを基本に、具体的な事業アイデアなどに関し協議した。

【第13回ワーキンググループ】(令和6年8月7日開催)

前回までの協議結果を踏まえ、協議事項①及び③について、提言の具体的方向性に関し協議した。

【第9回協議会】(令和6年8月21日開催)

ワーキンググループの検討結果も踏まえ、協議事項①及び③について、提言の具体的方向性や提言の文案に関し協議した。その結果、次回会議までに、事務局にて、提言書(最終報告)の文案を報告書形式でまとめることとした。

～事務局にて提言書(最終報告)の文案を作成し、委員に事前送付～

【第14回ワーキンググループ】(令和6年9月4日開催)

提言書(最終報告)の内容に関し協議を行い、事務局案のとおりまとめる考えで一致した。

～会長の指摘を受け、事務局にて提言書(最終報告)の内容を修正～

【第10回協議会】(令和6年9月11日開催)

ワーキンググループの検討結果も踏まえ、加筆・修正後の提言書(最終報告)の内容に関し協議した。その結果、提言書(最終報告)については、加筆・修正後の事務局案のとおりまとめる考えで一致した。また、提言書(最終報告)については、後日、会長より市長に提出することを確認し、すべての協議を終了した。

【提言書(最終報告)】

4. 中央地区のまちづくりに関する提言（最終報告）

これまでの協議を踏まえると、中央地区のまちづくりのあり方としては、コンセプトである『観光とまち つながる つなげる 人と人 ホットするまちづくり』が示すとおり、域外からの観光客と地域住民が交流し、両者によって賑わいが創り出される方向性が見出されるものとする。

この方向性を踏まえれば、この地区に求められる機能としては、宿泊機能や観光客の誘致に資する機能、子育て支援機能、教育・文化機能などが想定されるほか、環境整備の一環としては、それぞれの機能が有機的に繋がるよう、この地区と周辺を結ぶ地域交通やイベントスペースの拡充などが想定されるものとした。

これを踏まえて、協議事項①～③について検討した結果、協議会としては、各テーマについて、次の方向性を提言する。

なお、協議事項③に関する提言である宿泊施設については、サウンディング型市場調査をはじめとした民間事業者への聞き取りにより、新たに宿泊施設を誘致することは、実現性の面で課題が多いとも考えられることから、現庁舎跡地への新規誘致に拘らず、過去に中央地区で営業していた施設に再開の動きがある場合等には、これを支援するなどの取組を市に対して期待する。

また、同じく協議事項③に関する提言、観光客の誘致に資する施設に関連して言及する物販機能を有した「道の駅」的な施設については、令和7年3月をもって閉校となる幌別東小学校の跡地活用も含めて検討するよう期待する。

①現庁舎、アーニス周辺の環境整備については、中央地区と周辺地域を結んで地元客を呼び込み、中央地区の活性化に繋げるため、デマンド型乗合タクシーやコミュニティバスの事業化など、**中央地区周辺における地域交通の充実を提言する。**

また、現在でも中央地区では様々なイベントが開催されているが、内外からの来訪客を増やし、これを中央地区の活性化に繋げるためには、イベントの種類や回数を増やすことも一策である。しかし、既存の広場等ではそうした取組にも限界があることから、地域におけるイベントの充実を図るため、**イベントスペースの拡充を提言する。**

なお、現在、中央地区におけるイベントは、その多くが中心地に位置するらっぱ公園で行われていることから、らっぱ公園との一体的な活用も視野に、隣接する民間所有の老朽建築物（中央町4丁目8番地1）を除却し、同地（民間所有）を整備して活用することも検討するよう期待する。

②中心地にある商業施設の活性化については、（既に中間提言したとおり）単に買い物客の増加だけでなく、中央地区への来訪客数を増やし、中央地区の活性化に繋げるため、**中心地にある商業施設（ショッピングセンターアーニス）内に市立図書館本館を移転することを提言する。**

③現庁舎跡地の具体的な利活用方法については、地区内に滞在する宿泊客等の増加により、商業施設や飲食店に経済効果を及ぼし、中央地区の経済活性化に繋げるため、宴会場や宿泊客以外も利用できるスペースを併設した宿泊施設の誘致を提言する。

同じく③については、登別温泉を訪れる観光客を呼び込み、中央地区の活性化に繋げるため、物販機能を有した「道の駅的」な施設、体験型農園など、観光客をターゲットに、地域住民にもアピールする施設の誘致を提言する。

同じく③については、市内外から親子連れを中央地区に呼び込み、中央地区の活性化に繋げるため、子どもとその親をターゲットとした施設の誘致を提言する。

一方、新市役所本庁舎に同種の機能が併設される予定であることを踏まえ、子育て支援施設の誘致にあたっては、当該施設と年齢層や方向性などが重複しないよう留意することを期待する。

なお、実際に、現庁舎跡地への施設誘致に取り組むにあたっては、民間事業者の動向を踏まえ、上記3つの方向性のうち、最も可能性の高い方策を探ることはもちろん、その動向等によっては、これらのうち複数の機能を有する複合施設を検討することも期待する。

中央地区のまちづくりに関する提言（最終報告）

- ①現庁舎、アーニス周辺的环境整備については、「中央地区における地域交通の充実」、「(地域におけるイベントの充実を図るため) イベントスペースの拡充」を提言する。
- ②中心地にある商業施設の活性化については、「商業施設(ショッピングセンターアーニス)内に市立図書館本館を移転する」ことを提言する。
- ③現庁舎跡地の具体的な利活用方法については、「宴会場や宿泊客以外も利用できるスペースを併設した宿泊施設の誘致」、「観光客をターゲットに、地域住民にもアピールする施設の誘致」、「子どもとその親をターゲットとした施設の誘致」、またはそれら機能のうち複数をもつ複合施設の誘致を提言する。

以上が、中央地区のまちづくりに関する本協議会の提言となるが、市に対しては、今回提言した方向性を踏まえて、民間事業者へのさらなる聞き取りなどによって実現性を精査し、民間施設の誘致や公共スペースの整備などに取り組むことを期待する。

～資料編～

資料I

中央地区まちづくり協議会委員名簿(敬称略)

	氏名	選出団体等名	役職
1	斎藤正史	登別商工会議所	会長
2	大野 薫	一般社団法人登別国際観光コンベンション協会	
3	亀谷和人	登別中央商店会	
4	大橋幸人	らいば商店会	
5	田中敏博	協同組合登別中央ショッピングセンター	
6	名畑泰昌	登別中央飲食店組合	
7	宮崎克宣 (松崎英樹)	北海道銀行	
8	福島弘久 (堀内 謙) (中田信也)	室蘭信用金庫	
9	藤江紀彦	社会福祉法人登別市社会福祉協議会	
10	仲川弘誓	登別市市民自治推進委員会	
11	鳴海文昭	登別市連合町内会	
12	西尾拓也	のぼりべつ元鬼協議会	副会長
13	相沢拓矢 (渡辺哲也)	一般社団法人登別室蘭青年会議所	
14	橘井健佑	日本工学院北海道専門学校	

※()内は前委員になります

資料2

中央地区まちづくり協議会ワーキンググループ委員名簿(敬称略)

	氏名	選出団体等名
1	寺島 真一郎	登別商工会議所
2	大野 薫 (中平 將)	一般社団法人登別国際観光コンベンション協会
3	亀谷 和人	登別中央商店会
4	大橋 幸人	らいば商店会
5	田中 敏博	協同組合登別中央ショッピングセンター
6	名畑 泰昌	登別中央飲食店組合
7	増屋 愛美	北海道銀行
8	堀内 謙 (中田 信也)	室蘭信用金庫
9	佐藤 歩美	社会福祉法人登別市社会福祉協議会
10	佐久間 将之 (川田 翔太郎)	登別市市民自治推進委員会
11	竹中 修嚴	登別市連合町内会
12	川田 弘教	のぼりべつ元鬼協議会
13	相沢 拓矢 (渡辺 哲也)	一般社団法人登別室蘭青年会議所
14	橋井 健佑	日本工学院北海道専門学校
15	鈴木 雄登	会長推薦
16	望月 啓一郎	会長推薦
17	小和田 奈々	会長推薦

※()内は前委員になります

